

## Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 64 堀田 亮 (岐阜大学保健管理センター)

1) 学会からのお知らせ (<http://jahp.wdc-jp.com/>)

■日本健康心理学会第31回大会／日本ヒューマン・ケア心理学会  
 学術集会第20回大会情報 (2018年6月23・24日, 京都橘大学)  
 (大会準備委員会より)

## (1) 大会プログラム公開の案内

大会プログラムが公開されております。ご確認ください。  
 大会プログラム<URL: <http://jahp.wdc-jp.com/conf/31st/program/index.html>>

(2) ラピッドコミュニケーションポスター発表申込・論文集原稿  
 投稿の期限

ラピッドコミュニケーションポスター発表申込・論文集原稿投稿  
 の期限は、5月29日(火)までです。  
 ※論文集公開の直前まで申し込み可能な形式としておりますので、  
 申込期限が延長されることはありません。ご注意ください。

## (3) 書籍や機器、物産展コーナーの特設

ポスター会場では、健康心理学関連の測定機器コーナーや書籍コ  
 ーナーに加え、今大会では京都の物産展コーナー (和菓子や漬物な  
 ど) が特設されることになりました。その場で食して京都気分を味  
 わうもよし、家族や職場への京都土産とするもよし。是非、お立ち  
 寄りください。

## (4) 周辺環境など (その他3)

山科駅前にあるNKビルがリニューアルされ、今年の4月14日  
 (土) にピエラ山科がオープンしました。ピエラ山科内には飲食店  
 や薬局の他に、京都で有名なパン屋「志津屋」もあります。志津屋  
 のカルネはテレビ番組でもよく紹介されており、ご存知の方も多  
 いのではないのでしょうか。機会がありましたら、学会の合間の軽食と  
 して購入してはいかがでしょうか。

■第112回・113回・114回健康心理学研究会のご案内 (研修委員  
 会より)

健康心理学研究会を31回学術総会2日目に下記要領で開催しま  
 す。研究会の詳細、およびお申し込みにつきましては、ウェブサイ  
 ト (<http://jahp.wdc-jp.com/kensyu/kensyu2.html>) をご覧ください。

- ・112回: 公認心理師の専門教育 (1) 医療心理学系科目と医学系  
 科目との有機的な連携の必要性について (講師: 岩原昭彦, 京  
 都女子大学発達教育学部)
- ・113回: 子どもたちをタバコから守るために (講師: 加治正行,  
 静岡市保健所 所長)
- ・114回: 慈悲とマインドフルネス瞑想とヘルス・プロモーション  
 (講師: 有光興記, 関西学院大学文学部総合心理科学科)

■健康心理学会入会のご案内 (健康心理学会担当常任理事より)  
 健康心理学会への入会については、健康心理学会ホームページよ  
 り申し込みください。

健康心理学会ウェブサイト: <http://www.health-psychologists.com/>  
 入会申し込み: <http://www.health-psychologists.com/~e3-81-8a-e7-9f-a5-e3-82-89-e3-81-9b.html>  
 お問い合わせ先: [jhpmember33@gmail.com](mailto:jhpmember33@gmail.com)

2) 健康心理学コラム Vol. 64

「大学生特有の心理ストレスを捉える」  
 堀田 亮 (岐阜大学保健管理センター)

私は現在、大学の保健管理センターで学生相談を担当しながら、  
 Counseling Center Assessment of Psychological Symptoms  
 (CCAPS) の日本語版尺度の作成に取り組んでいます。さて、こ  
 の尺度いったい何者なのでしょうか?

多くの日本の大学では、定期健康診断等の機会を利用して、予防  
 やハイリスク学生の抽出を目的としたメンタルスクリーニングテ  
 ストが実施されています。しかしながら、用いる尺度は一般成人を  
 想定して作成された尺度が多く、大学生特有の症状を十分に測定で  
 きていないという問題点があります。また、大学生に特化した尺度  
 もあるのですが、日本語版しか存在しなく、大学生のメンタルヘル  
 スに関する国際比較ができないという課題もあります。

一方、CCAPSは高等教育機関での使用を想定して作成された尺  
 度で、大学生特有の心理・精神症状として、抑うつ、全般性不安、  
 社会不安、食行動、敵意、家族ストレス、学業ストレス、物質使用  
 の8因子62項目 (短縮版は34項目) を測定します。CCAPSはス  
 クリーニングテストとしてだけではなく、カウンセリングの評価、  
 モニタリングとしても有用であるとされています。

CCAPSが日本でも実用化されれば、大学生に対して、より精度  
 の高い心理・精神症状のアセスメントが可能となるでしょう。そし  
 て、アメリカではCCAPSの回答はデータベース化されており、他  
 言語への翻訳も進んでおります。したがって、他国の大学生との比  
 較を通して、日本人大学生のメンタルヘルスの特徴を描きだせるよ  
 うになると考えています。私は今、そんな研究に取り組んでいます。

## 文献

- Horita, R., Nishio, A., & Yamamoto, M. (2017). Development of  
 the Japanese version of the counseling center assessment of  
 psychological symptoms: A pilot study. American College  
 Health Association Annual Meeting 2017.
- Locke, B. D., Buzolitz, J. S., Lei, P. W., Boswell, J. F., McAleavey,  
 A. A., Sevig, T. D., ... & Hayes, J. A. (2011). Development of  
 the counseling center assessment of psychological symptoms-  
 62 (CCAPS-62). *Journal of Counseling Psychology*, 58(1), 97-  
 109.

-----

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 <[jahp-post@bunken.co.jp](mailto:jahp-post@bunken.co.jp)>

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 <[jahp-ML@bunken.co.jp](mailto:jahp-ML@bunken.co.jp)>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<http://jahp.wdc.jp.com/health/health1.html>